徳島新聞　２０２１年（令和３年）４月２９日　木曜日（２２）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

古川（Jクラシック）初V

田村（阿南）2位 勢井（月の宮）3位

ゴルフ　県アマチュア選手権

ゴルフの第45回徳島県アマチュア選手権最終日は28日、徳島市の徳島カントリー倶楽部月の宮コース（6776ヤード、パー72）で行われ、初日首位の生光学園高3年、古川惣一朗（Jクラシック）が2日間通算3オーバーの147で初優勝を飾った。

2位に1打差でスタートした古川は前半の2番でバーディーを奪った後、4番、5番で連続ボギー。後半も13番でスコアを二つ落としたが、トップを守って3打差で逃げ切った。

初日2位の田村泰章（阿南）は77で回り、通算150で2位。さらに1打差の通算151で生光学園高3年の勢井乃樹（月の宮）と愛媛・川之江北中2年の篠原和樹（レオマ）が並んだが、最終日トップの73をマークした勢井がマッチングスコアカード方式により3位に入った。

四国アマチュア選手権（5月25～28日・グランディ鳴門GC）の出場権は、シード選手2人を除く通算166の32人が獲得。国体少年男子の四国ブロック大会（7月27、28日・JクラシックGC）には古川、勢井、生光学園高1年の濱渕裕生（鳴門）が出場する。

最終成績（10位タイまで）

①古川惣一朗（Jクラ）	＋3	147	（72、75＝37、38）
②田村　泰章（阿　南）	＋6	150	（73、77＝39、38）
③勢井　乃樹（月の宮）	＋7	151	（78、73＝37、36）
③篠原　和樹（レオマ）		151	（74、77＝39、38）
⑤濱渕　裕生（鳴　門）	＋11	155	（78、77＝39、38）
⑥古林　敬介（レオマ）	＋12	156	（79、77＝38、39）
⑥武田　紘汰（月の宮）		156	（74、82＝43、39）
⑧木村　剛志（グラン）	＋13	157	（78、79＝40、39）
⑧山田　直人（御　所）		157	（76、81＝42、39）
⑩柳田　英記（御　所）	＋14	158	（79、79＝38、41）
⑩安喜　正満（吉野川）		158	（77、81＝42、39）

（Jクラは Jクラシック、グランは グランディ）

9（83、76）⑫綾原大輔（タカガワ西）159（76、83）⑭近藤本一（月の宮）160（79、81）⑮明石光由（タカガワ西）161（84、77）⑮粟林良（レオマ）161（83、78）⑮大槻好行（タカガワ東）161（81、80）⑱尾形知宏（タカガワ西）163（80、83）⑲新居一郎（グランディ）164（86、78）⑲岡本浩希（御所）164（85、79）⑲小野寺秀樹（眉山）164（84、80）⑲尾崎竜二（阿南）164（83、81）⑲加本秀明（月の宮）164（82、82）㉔山本真之（タカガワ西）165（83、82）㉕満水匠（四国）166（87、79）㉕佐藤秀樹（レオマ）166（86、80）㉕水主遼也（月の宮）166（85、81）㉕落合一之（四国）166（84、82）㉕芦谷健太（阿南）166（83、83）㉕吉井滉介（阿南）166（82、84）㉕池田鳴美（タカガワ西）166（81、85）㉕福島慎也（Jクラシック）166（81、

18番でウイニングパットを決めて笑顔を見せる古川＝徳島カントリー倶楽部月の宮コース

冷静さ失わず逃げ切る　古川

最終18番でウイニングパットを沈めると帽子を取って関係者に一礼した。8度目の挑戦で念願の初優勝を果たした生光学園高3年の古川（Jクラシック）は「本当に良かった」と言葉をかみしめた。

「プレッシャーを感じていた。差を広げようと攻めたら（左方向に落ちる）チーピンになった」。13番ミドルで1打目がOBとなり、ダブルボギーをたたいて2位と1打差に。「悪くても我慢してパーセーブする」と自分に言い聞かせ、冷静さを失わなかった。

14番ロングの2打目をグリーン右のバンカーに入れるピンチも確実に3オン。17番ロングも4打目をグリーン手前からピンに寄せるなど、18番まで5連続パーでしのいで勝利をたぐり寄せた。

身長180㌢、体重75㌔の恵まれた体格の飛ばし屋。ドローボールが持ち球だが、低いフェードボールを習得したことでショットの調子が悪くてもパーでまとめられるようになったのが大きな成長だ。

学校ではゴルフ部の主将を務めており、後輩の手本となるプレーを心掛ける。大学進学後はツアープロを目指しており、「四国選手権で優勝して日本選手権でも好成績を収めたい」と次の目標を見据えた。

（須見千次郎）